



Global Open Technological Sciences

世界に開かれた技術科学



開学40周年記念事業報告書

目 次

学長	長あし	(さつ	1
開学	ź40∫	周年記念事業募金受入状況	1
1.	開学	240周年記念事業募金の決算報告	2
2.	開当	ź40周年記念事業概要 ····································	3
	1)		3
	2)	学生支援の充実に関する事業	4
	3)	機能強化に向けた重点プロジェクトの推進	7
	4)	40年史の編集と発行	8
	5)	開学40周年記念式典、記念講演会等の40周年記念 事業(冠事業)の実施······	8
	6)	寄附者のみなさまへ2	1.1
3.	「写	真」で見る開学40周年記念事業2	22
4.	発記	起人名簿2	7



Message 学長あいさつ

「産学連携・社会連携」、「学生支援の充実」、 「機能強化に向けた重点プロジェクトの推進」

本学は、平成28年10月に開学40周年を迎え、「記念 事業趣意書」にございますように、「世界に開かれた技 術科学」をテーマに「産学連携・社会連携」、「学生支援 の充実」、「機能強化に向けた重点プロジェクトの推進」 を3本柱として事業を実施してきたところです。

これらの事業実施のため、平成27年10月から平成 29年9月までの2年間、開学40周年記念事業の募金 (寄附金)活動を行って参りました。

これまでに、教職員、学生をはじめ、企業、保護者、名 誉教授、同窓生、教職員OB等から、本事業の趣旨にご 賛同いただき、多大なご寄附を頂戴しました。この場を 借りて厚く御礼申し上げます。ご寄附の受入状況につい ては以下の「募金受入状況」をご覧ください。

頂戴したご寄附による代表的事業の一つとして、附 属図書館の改修が挙げられます。

経年による老朽化が進んだことと、図書館の在り方を 見直すため、文部科学省に認めていただいた改修事業 に加えて、本学の資金とご寄附いただいた資金により 改修を行いました。1階に研究者、学生、企業、地元の みなさまが交流を行うエリア「マルチプラザ」を整備し、 また、女性が働きやすい環境を作るための支援エリアと

して「女性支援エリア」を新設するなど、女性教職員・学 生のサポート体制の充実強化を図ったもので大変好評 を得ているところです。

また、本事業以外の記念事業についても本冊子で紹 介しておりますのでご高覧いただければ幸いです。

開学40周年記念事業は平成29年9月で終了しまし たが、2年間の事業を実施して生じた残金については、 豊橋技術科学大学基金(教育研究支援基金)として管 理し、引き続き学生支援、教育研究、社会貢献及び国 際交流に関する活動等、記念事業募金の趣旨に添って 活用していく所存です。

今後とも本学への格別のご支援、ご協力を賜りますよ うお願い申し上げます。



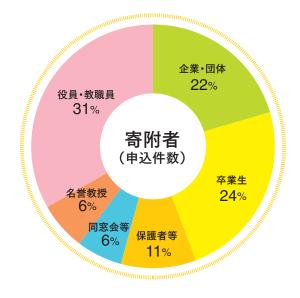
豊橋技術科学大学長 大西 隆

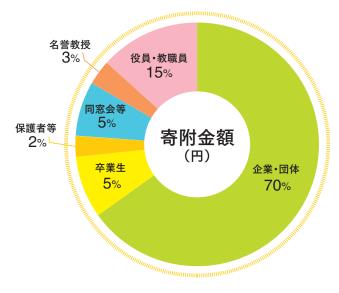
開学40周年記念事業募金受入状況

●募金状況(平成27年10月~平成29年9月)

区分	寄附者(申込件数)	寄附金額(円)
企業・団体	188	68,450,000
卒業生	199	5,046,000
保護者等	90	1,428,000
同窓会等	49	5,007,697

区分	寄附者(申込件数)	寄附金額(円)
名誉教授	53	2,640,000
役員・教職員	266	14,889,400
計	845	97,461,097





開学40周年記念事業募金の決算報告について

●開学40周年記念事業募金の決算報告(収支報告)

(収入)

事 項	収入額
	円
(1)40周年記念事業寄附金	97,461,097
① 企業・団体	68,450,000
② 卒業生	5,046,000
③ 学生の父母等	1,428,000
④ 同窓会等	5,007,697
⑤ 名誉教授	2,640,000
⑥ 役員•教職員	14,889,400
	97,461,097

(支出)

事 項	支出額
	円
(1)環境整備事業	35,780,400
① 附属図書館改修工事	13,500,000
② 正門サイン施工	507,600
③ 学生課外活動施設整備 (陸上競技場・テニスコート)	21,772,800
(2)40周年記念事業実施経費	936,614
① 市民公開講演会	93,776
② 各種シンポジウム支援経費 ・理系女性活躍促進シンポ ・未来ビークル主催シンポ ・研究力強化シンポ	206,156
③ 各種学生課外活動支援経費	419,868
④ 各種学会活動支援経費	116,814
⑤ 技術支援室報告会支援	100,000
(3) 繰越(基金として管理)	60,744,083
	97,461,097

【開学40周年記念 共同研究】

	事	項	共同研究費 (円)
民間機関等との共同研究			155,000,000

【開学40周年記念事業/日本学術会議 市民公開講演会助成金】

助成機関	年 度	助成金 (円)
公益財団法人 大林財団	平成 27 年度	1,000,000



2 開学40周年記念事業実施概要

1 ● 産学連携・社会連携に関する事業

●『技術科学イノベーション研究機構』の設置(設置日:平成28年4月1日)

本学では、①国内外のリーディング企業やトップ研究機関との強力な協働作業による、先端(融合)研究の 推進、②急速な進化を遂げつつある人工知能技術と融合した価値創造型の創発型システム研究の推進、③ 課題解決型社会システム研究の推進を掲げ、既存のエレクトロニクス先端融合研究所と4つのリサーチセン ターの研究活動との間に横串を通し、オープンイノベーション実現に向け研究を推進する「技術科学イノベー ション研究機構 | を設置しました。

機構内で、国内外の研究機関や企業とマッチングファンド形式による「イノベーション協働研究プロジェクト」 (本学及び学外研究機関等の双方、若しくはいずれかに研究室を設置し特定先端研究を行う先端共同研 究ラボラトリー及び効果的な融合研究を進める共同研究プロジェクトの総称)という特別枠で学内募集を行 い、平成28年度は16件の研究テーマ(進化するロボット、モーション制御、多言語機械翻訳、地震防災情報 検知システム実装など)を選定し、特定分野の最先端を切り開くとともに、平成29年度は新規に4件の研究 テーマを選定し、継続分と合わせて20件の研究テーマで研究成果の社会実装・社会提言力を強化すべく企 業等との協働研究を推進しています。

平成29年度イノベーション協働研究プロジェクト

戦略研究部門	件数
創発型システム研究部門	11件
社会システム研究部門	6件
先端(融合)研究部門	3件





●社会人学び直し、地域文化の振興、地域産業の発展に資する事業の実施

社会連携推進センターを設置し、地域・産業界等のニーズをより的確に捉えた社会人向け実践的教育プ ログラムの開発等を行うなど、社会人学び直し、地域文化の振興、地域産業の発展に寄与する事業として以 下の活動を行いました。

社会人向け実践的教育プログラム

分 野	件数
産業技術科学分野(ものづくり)	6件
地域社会基盤分野(防災・農業)	4件

●寄附講座、連携研究室等の設置

開学40周年記念として、募金(寄附)以外に共同研究の形で以下のご支援をいただきました。

事 項	金額(千円)
民間機関等との共同研究	155,000

2 ● 学生支援の充実に関する事業

■宿舎のグローバル化・充実(グローバル学生宿舎の完成)

グローバル技術科学アーキテクト養成コースの新設にあわせて、日本人学生と外国人留学生が生活を共 にする、収容人数180名のシェアハウス型グローバル学生宿舎(TUTグローバルハウス)を新設しました。ここ は多様な国籍・文化・価値観が共生する場となり、日本人学生と外国人留学生が英語を共通語としたバイリ ンガル環境で共に生活することで、グローバル社会に必要な人間力を養います。

1棟3階建て30名収容6棟と集会棟1棟で構成され、1つのユニットは5名の個室と共有のリビング・ダイニ ング・キッチン、シャワールームを備えています。平成29年4月のコース開始にあわせて2棟と集会棟1棟を完 成、平成31年3月末までにすべての建設工事を終える予定です。既設の学生宿舎(収容人数約600名)に隣 接して建設し、両方合わせて約800名の学生がキャンパス敷地内で生活することとなります。これにより、学生 総数の36%の学生が学生宿舎に入居し、そのうち25%が外国人留学生となる見込みです。

グローバルな資質・人間力・教養力・リーダーシップを涵養する教育型宿舎として、ハウスマスター、学生の レジデント・アシスタントや教職員も居住して、学習支援プログラムや多様なイベントを企画・実施します。その 活動はグローバル学生宿舎に留まらず、周囲の既存の学生宿舎とも一体的に行なわれます。これにより多様 な文化の食・住・学が近接共存する特区が構成され、キャンパス全体へ波及し、多文化共生・グローバルキャ ンパスを実現していきます。







●学生課外活動施設の整備・充実

開学から40年が過ぎており学生の課外活動施設も老朽化 が進んでいます。このたびのご厚志により、陸上競技場(フィール ド、トラック)の除草、土補充、不陸整正、テニスコートの人工芝 張り替え及び舗装・ライン・ひび割れ補修を行い、美しい環境の 下で学生が活動できるよう施設整備の充実を図りました。



■憩いと潤いのあるキャンパス環境の整備

附属図書館は、昭和55年に建設され、経年による老朽化が進み、近年の図書館の在り方に合わなくなって きたことを踏まえ改修工事を行い、平成29年3月21日よりリニューアルオープンしました。

技術科学によるイノベーション創出や、グローバルに活躍できる優れた技術者・研究者の育成のため、多 文化共生・グローバルキャンパスの核として、キャンパスの中央に位置する図書館の1階を「マルチプラザ」と し、日本人学生・外国人留学生・教職員・企業・地域との交流等を行うエリアとして整備しました。開学40周 年記念事業の一環として、図書館南側のデッキスペースには、本学同窓会をはじめ企業、卒業生等の皆様か らのご寄附を充当し、人工木デッキ・テーブル・テラス屋根を設置しました。地域の皆様をはじめ、学外の方々 にもオープンにしていますので是非ご活用下さい。

また、女性専用の休憩室・授乳コーナー等の女性支援エリアを新設し、女子学生・女性研究者等のサポー ト体制の充実強化を図りました。

なお、図書館北側の外部パブリックスペースについても、図書館と外部パブリックスペースを内部から外部 へのつながりや人の流れを大切にした一体的な空間として整備し、質の向上を図っています。









●心と体の健康増進施策の実施

食堂の運営会社の協力によって、学生・教職員を対象に、平成28年4月4日より限定100食を200円で提 供する「めざましごはん」の活動が始まりました。

※授業期間中の月~金曜日(8:00~9:30)

※メニューは日替わり

本学は、開学40周年記念事業の重要な取り組みのひとつとして、学生支援の充実に関する事業を挙げて おり、心と体の健康増進として食生活に注目し「規則的で、栄養バランスのいい食事は朝食から」という習慣 をつけることが目的です。低価格で量が多くとても美味しいと、学生にも好評です。





●留学生を含む学生支援の強化・充実

本学では開学40周年を機に、「修学支援事業基金」を新たに開設しました。

本基金へのご寄附は、経済的理由により修学が困難な本学学生に対する支援として、その目的を達成する ため、以下の4つの事業に使わせていただく予定です。

(事業内容)

- ① 授業料、入学料又は寄宿料の全部若しくは一部の免除その他学生等の経済的負担の軽減を図るもの
- ② 学資を貸与又は給付するもの
- ③ 教育研究上の必要があると認めた学生による海外への留学に係る費用を負担するもの
- ④ 学生の資質を向上させることを主たる目的として、学生を教育研究に係る業務に雇用するために係る経 費を負担するもの

平成29年度は、当該「修学支援事業基金」を原資に、以下の「基金奨学金」を立ち上げ給付型奨学金(学 部学生対象)として支援強化を図ることとしました。

① 豊橋技術科学大学修学支援事業基金による奨学金(給付型)の概要

平成29年度から平成33年度までの5年間に渡り、日本学生支援機構大学奨学生に出願する者のう ち、学業・人物ともに優れると認められる者1名に、採用した年度の4月から2年間、月2万円を給付します (なお、奨学生の最短修業年限が2年に満たない場合は最短修業年限の終期までとします)。

② 豊橋技術科学大学修学支援事業基金による奨学金(海外留学支援)の概要

平成29年度から平成33年度までの5年間に渡り、海外で実務訓練を履修する学部4年生で、学業・人 物ともに優れると認められるもののうち、次のいずれかに該当する者1名に、上限15万円を支援します。

(1)日本学生支援機構大学奨学生に該当する者または申請した者



(2)授業料免除申請者

志の高い学生が、希望する教育を受けられるよう引き続きご支援をお願いいたします。

なお、使途を限定した「修学支援事業基金」の開設に伴い、使途を限定しない従来型の一般基金を「教育 研究支援基金」として整理し、豊橋技術科学大学基金(修学支援事業基金、教育研究支援基金)として管理 及び事業の推進を図ることとしました。

「教育研究支援基金」は、本学における学生支援、教育研究、社会貢献及び国際交流に関する活動等の 推進を図るとともに教育研究環境の整備充実を目的として、以下の支援を行うこととしました。

(事業内容)

- ① 学生(留学生を含む。)への支援
- ② 学術研究振興活動への支援
- ③ 社会貢献活動への支援
- ④ 国際交流の推進
- ⑤ その他基金の目的達成に必要な事業

開学40周年記念事業期間終了後も引き続き、企業・団体・個人の皆様方からの豊橋技術科学大学基金 (修学支援事業基金、教育研究支援基金)へのご支援をお願いし、学生支援の強化・充実に努めていく所 存です。

3 ● 機能強化に向けた重点プロジェクトの推進

●スーパーグローバル大学創成支援事業の推進

『グローバル技術科学アーキテクト』養成キャンパスの創成

事業実施期間:平成26年度~平成35年度(10年間)

日本が今後も世界で発展していくためには、大学の国際競争力の向上と、多様な場でグローバルに活躍で きる人材の育成が不可欠です。この人材を「グローバル技術科学アーキテクト」と名付け、言語・文化にとらわ れない工学教育を全学に展開し、国際通用力の高いキャンパスの実現を通じて育成します。「グローバル技 術科学アーキテクト」とは、グローバルな課題を発見し、分析・解決するための俯瞰的な構想・設計力を有し、 具体的なものづくりを主導できる高い技術力と科学的要素に裏付けられた上級技術者です。

●博士課程教育リーディングプログラムの推進

「超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成」

事業実施期間:平成25年度~平成31年度(7年間)

本学では、人間の理解に立脚した新しい技術を創出できる博士人材「ブレイン情報アーキテクト」を養成し ています。「ブレイン情報アーキテクト」とは、情報科学やセンシング技術を使って「脳を学び」、現在の技術に よっては未だ創りだせない機能を「脳に学び」、高度知的処理や超省エネルギーシステムなどの革新的な「情 報技術を創る」という、技術革新のサイクルをまわしながら新分野を切り開いていくことのできる人材です。こう した人材を育成するために、国内外の研究機関や産業界と密接に連携した教育プログラムを推進しています。

●研究大学強化促進事業の推進

「技術科学で新しい価値を創造する「価値創造型工学 | 研究の拠点形成 |

事業実施期間:平成25年度~平成34年度(10年間)

分野や組織の垣根を越え、国内外の企業や研究機関と連携を深め、海外トップクラスの多様な人材の招へい、新人事制度、多国間研究連携、戦略的知財活動、国際シンポジウム開催、海外への情報発信等を通して、これまでの「課題解決型工学」から異分野を融合し新しい価値を創造することを理念とした「価値創造型工学」に進化したイノベーション研究と成果の社会実装を推進する拠点の形成を目指し、本事業によって設置した研究推進アドミニストレーションセンターが中心となって、これを加速する支援体制・環境を整備しています。

■国立大学改革強化推進事業の推進

「三機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構)が連携・協働した教育改革」 〜世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成〜」

事業実施期間:平成24年度~平成29年度(6年間)

グローバルに活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者が求められている中、三機関(長岡・豊橋両技術科学大学、高専機構)の豊富な国際連携活動や、地域に根ざした産学官連携活動の強みを活かしたキャンパスネットワークにより、グローバル指向とイノベーション指向の人材育成を融合した教育プログラムの構築を目指します。本学が主担当となるグローバル指向人材育成事業では、海外教育拠点設置など、これまでになかった新しいことに取り組んでいます。

4 ● 40年史の編集と発行

開学40周年記念式典に合わせて、40周年史を作成しました。

これまで、10年を節目として年史を作成しており、今回は、「世界に開かれた技術科学」をテーマに「躍動の10年」として30周年から40周年までの10年間の動き(変化)や活動を中心に全312頁で構成しています。

5 ● 開学40周年記念式典、記念講演会等の40周年記念事業(冠事業)の実施

①開学40周年記念式典、記念講演会及び記念祝賀会の開催

• 開学40周年記念式典、記念講演会 (出席者数:約740名)

日時:平成28年10月3日(月)14:00~16:15

場所: 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 主ホール

• 記念祝賀会

日時:平成28年10月3日(月)16:45~18:15

場所:ホテルアソシア豊橋 5階 ザ ボールルーム

記念式典では、はじめに大西学長が式辞を述べ、続いて、氷見谷直紀 文部科学省高等教育局国



立大学法人支援課長、山本健慈 一般社団法人国立大学協会専務理事、根本幸典 国土交通大臣政 務官兼内閣府大臣政務官・衆議院議員、石原君雄 愛知県副知事、佐原光一 豊橋市長よりご祝辞 を頂戴しました。また、長年に渡り本学の発展にご支援を頂いている豊橋技術科学大学協力会及び オーエスジー株式会社に感謝状の贈呈を行い、開学40周年記念歌「希望の丘」を作詞・作曲した平 石明教授を表彰しました。

記念講演会では、中鉢良治 国立研究開発法人産業技術総合研究所理事長より「技術を社会へ」 と題してご講演いただき、約740名の出席者が熱心に耳を傾けました。

記念祝賀会では、大西学長の挨拶の後、来賓の方々よりご祝辞を頂戴しました。続いて、鏡開 き、本学吹奏楽団による祝賀演奏等が行われ、盛況のうちに終了しました。









②開学40周年記念歌の募集

一次審査:平成28年7月12日(火)

二次審査:平成28年7月15日(金)~7月25日(月)

最終審査:平成28年7月27日(水)

平成28年4月から3か月間、本学の学生、教職員及び同窓生から開学40周年記念歌を募集しました。その結果、「Challenge for change the world」、「ここから未来へ」、「希望の丘」の3点の応募があり、関係者による一次審査、学生及び教職員による学内投票(二次審査)を経て、開学40周年記念事業委員会にて最終審査を行い、記念歌として「希望の丘」が選定されました。

希望の丘

雲雀の丘に建つ白城の学び舎 自然の息吹を享け昂然の姿 らせんを辿り 人の和を繋ぐ 夢を抱きたる心ここにあれ

理の力を究め明日の技を創る 静寂の天伯に情熱の姿 羽ばたく翼 いま時を駆け 希望の泉たる心ここにあれ

風薫る三河に光彩はまぶしく 未来へとつづく道我ここを行かん 人の幸せ それを目指すため 愛を抱きたる心ここにあれ 愛を抱きたる心ここにあれ



③開学40周年記念植樹式

日時:平成28年11月8日(火)13:00~13:30

場所:本学講義棟 東側の芝生

植樹する木:シデコブシ7本 (豊橋技術科学大学学長を囲む会よりのご寄附。)

本学講義棟東側にて、「豊橋技術科学大学学長を囲む会」の皆様による、開学40周年記念植樹式 を開催しました。







植樹する樹木はシデコブシで、学長を囲む会の皆様より、寄贈いただきました。はじめに、学長 を囲む会 代表幹事のイノチオホールディングス株式会社 石黒 功 代表取締役社長から、開式のご 挨拶をいただいたあと、大西学長から、植樹に対するお礼の言葉がありました。続けて、サーラグ ループ 神野 信郎 名誉顧問(本学特別顧問)、株式会社大三コーポレーション 松井 英治郎 代表取 締役社長、光陽製菓株式会社 鈴木 国雄 取締役会長、石黒社長、大西学長及び大貝 彰理事・副学長 らによる、記念植樹の盛り土が行われました。

最後に、神野名誉顧問より、本学がシデコブシとともに、地域に根ざし、ますますの発展を祈念 するとのご挨拶をいただきました。

④開学40周年記念 TUTグローバルハウス及び附属図書館竣工記念式典・披露会・記念祝賀会

日時:平成29年3月28日(火)13:30~17:30

場所:TUTグローバルハウス集会所横,附属図書館,福利施設ひばりラウンジ

文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業における「グローバル学生宿舎(TUTグロー バルハウス)」及び改修を進めていた「附属図書館」が竣工したことを記念し、3月28日に、豊橋







技術科学大学 開学40周年記念 TUTグローバルハウス及び附属図書館竣工記念式典・披露会・記念祝賀会を挙行しました。

記念式典では、はじめに大西学長が式辞を述べ、 続いて、谷口 功 独立行政法人国立高等専門学校機 構理事長、山下 治 文部科学省大臣官房文教施設企 画部長、石原 君雄 愛知県副知事、佐原 光一 豊橋市 長、神野 信郎 中部ガス株式会社相談役・本学特別 顧問よりご祝辞を頂戴しました。

披露会では、両施設において、担当理事による施

設の説明、来賓の皆様によるテープカットが行われたあと、出席者は両施設内を見学しました。

記念祝賀会では、大西学長の挨拶のあと、森 仁志 名古屋大学附属図書館長・東海地区図書館協議会会長及び石黒 功 イノチオホールディングス株式会社代表取締役社長・豊橋商工会議所副会頭よりご祝辞を頂戴しました。続いて、山口進 豊橋信用金庫理事長・豊橋商工会議所副会頭による乾杯の発声のあと、懇談が行われ、最後に、大貝理事・副学長による謝辞があり、盛況のうちに終了しました。

⑤その他の開学40周年記念事業(時系列)

●男女共同参画推進川柳募集

期間:平成28年5月23日(月)~6月30日(木)

男女共同参画を考えるきっかけづくりとして、男女共同参画週間(内閣府)に合わせ、学内に川柳を募集したところ56句の応募がありました。審査委員会(大貝彰審査委員長)により、吉井啓勝氏(本学電気・電子情報工学課程 学部4年)の作品を最優秀賞に、さらに優秀賞を2句、入選を3句選出し、7月26日に表彰式を行いました。

表彰作品は以下の通り。

最優秀賞 「ものづくり 想いの前に 性差なし」 吉井 啓勝 氏 優秀賞 「性差こそ 未来を拓く 可能性」 大石 修士 氏 「我が研究 子の成長と 共にあり」 鈴木いずみ 氏

入 選 「早帰り 算数ドリルを ともに解き」 山口 昌志 氏 「家事、仕事 バランスとれて 皆にこり」 髙柳 和寛 氏 「立ち位置を 変えて見渡せ 世の中を」 吉田 広平 氏

●鈴木章北海道大学名誉教授講演会

日時:平成28年6月30日(木) 場所:本学講義棟A-101

2010年にノーベル化学賞を受賞された北海道大学名誉教授 鈴木章氏をお迎えし、豊橋技術科学大学



プレステージレクチャーズを兼ねて、博士課程教育リーディングプログラム、平成28年度バトンゾーン特論講 義、「有機ホウ素化合物を用いるクロス・カップリング反応: C-C結合の容易な合成法 | を実施しました。

この講演は博士課程リーディングプログラム履修生の企画によって開催され、鈴木氏のご講演に先立って、 プログラムの紹介や履修生による研究のポスター発表も行われました。

■武道部演武会

日時: 平成28年7月9日(土) 開演13:00

場所: 豊橋市民文化会館



武道の魅力を広く一般の方に知ってもらうため、武道部での稽古の成果を発表しました。型や組手など の演武に加え、稽古や武道について解説を行ったりと、詳しく知っている方も知らない方も楽しめる構成でし た。12回目を迎える今年は、"心躍る一瞬"をキャッチフレーズに行われました。また、空手道場である尚志館、 全日本剣道連盟居合といった方々にも招待演武として参加していただきました。

●市民公開講演会

日時:平成28年8月2日(火)13:30~17:00 場所:ホテルアソシア豊橋 5階 ザ ボールルーム

「科学技術の光と影 ―市民との対話から考える 科学技術と自動運転システムの未来―」と題 して行われた講演会では、梶田隆章 東京大学宇宙線研究所長・教授に、「基礎科学研究を支える テクノロジー ―宇宙線関連研究を例に―」をテーマに基調講演いただいたのち、加藤光久 トヨ 夕自動車株式会社代表取締役副社長に、「自動運転技術による新たなモビリティ社会の実現 ―知 能化するクルマと人との進化した協調にむけて一」をテーマに講演いただき、続けて、下條信輔 California Institute of Technology Professor/豊橋技術科学大学特別招聘教授に、「機械に責任を











持たせられるか? ―自動車、ロボット、ブレイン・マシン インターフェース―」をテーマに講 演いただきました。

講演後は、講師と大西学長がパネリストとなり、土井美和子 日本学術会議第三部副部長/情報 通信研究機構監事の進行のもと、「科学技術の光と影」について、パネルディスカッションが行わ れました。

講演後の質疑応答やパネルディスカッションでは、会場の高校生や市民の方々から、多くの質問 が寄せられ、科学技術と自動運転システムの未来について、活発な議論が行われました。

●電気学会マグネティックス研究会

期間:平成28年8月9日(火)~8月10日(水)

場所:本学講義棟A1-101

電気学会マグネティックス研究会では、毎年全国の大学等を会場として年に数回の研究会を開催 しており、平成28年度には電気学会ナノスケール磁性体の構造・組織解析と創製専門調査専門委員 会が新しく組織されました。

この委員会発足記念及び本学の冠事業の一貫として、8月に、本学にて「ナノスケール構造磁性 体、光機能デバイス、磁性材料、磁気応用一般」をテーマに研究会を開催し、計93名(9日:49 名、10日:44名)の参加がありました。

●オープンキャンパス

日時:平成28年8月27日(土)10:00~16:00

場所:本学キャンパス

第33回オープンキャンパスを開催しました。毎年好評 をいただいている小学生向け体験学習教室、研究室・研 究所公開などの他、前年に引き続きエフエム豊橋公開生 放送を実施しました。また、デザイナー髙橋正実氏が開



学40周年に合わせ新規デザインしたオリジナルエコバッグを来場者の方々に配布しました。 学生からご家族連れまで、2,900名もの方々にお越しいただきました。



●技科大同窓生による開学40周年記念講演会

日時:平成28年8月27日(土)14:00~15:30

場所:本学講義棟A1-101、A2-101(サテライト会場)

Kii株式会社代表取締役会長兼CEO 荒井真成 氏(本学情報工学系1984年修了)を講師に 『Silicon Valley型起業術とグローバライゼーション』をテーマに開学40周年記念講演会をオープン キャンパスと同時開催しました。

●女性研究者研究活動支援事業【連携型】「理系女性研究者の活躍促進シンポジウム」

日時:平成28年8月23日(火)13:00~16:40

場所:1部、2部 本学講義棟 A-101、3部、福利施設(ひばりラウンジ)

文部科学省「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」の一環として、「理系女性研究者の活躍 促進シンポジウム」を開催しました。(主催: 豊橋技術科学大学・名古屋大学・名古屋市立大学)

本シンポジウムでは、理系女性研究者の活躍促進にフォーカスを絞り、理系の女性研究者を増や すために、現状分析及び意識啓発を目的として、1部:講演会、2部:討論会、3部:カフェ交流 会の3部構成としました。

学内外から130名を超える参加者があり、参加者アンケートにおいても非常に高評価をいただき ました。

●磁性研ゼミナール

日時:平成28年6月24日(金)~平成29年3月21日(金)(計9回開催)

場所:本学C棟204号室 または F棟9Fセミナー室

磁性研ゼミナールでは、これまで国内外の著名な研究者を招へいし、講演会を実施してきまし た。平成28年4月に第100回を超え、平成28年度中に合わせて全9回を開学40周年記念事業の一 環として実施し、学内へ周知し、また学会との共催にしたものについては学外へも周知しました。 各回30~40名程の聴講者を集め、議論を行いました。

●炎の祭典(コーナー出典)(学友会)

日時:平成28年9月10日(土)

場所:豊橋公園

豊橋を代表するイベントである炎の祭典(花火大会)に参加する子供達を対象に、科学や技術に 興味を持ってもらうことを目的に開催しました。ブース内ではスライム作り体験と脳波を用いた ゲーム体験の2つを提供しました。スライム作りでは、子供自身にスライムの作成に取り組んでも らうことで、化学反応によるスライムの形成を直接肌で感じ、科学への興味を持つきっかけを提供 することができました。脳波を用いたゲーム体験では、子供だけでなく保護者の方々にも興味を 持っていただき、スライム作りと同様の人気がありました。脳波を測定しゲームを進行させるもの で、本学の技術の宣伝に加え、子供だけでなく保護者の方々にも本学に興味を持っていただきまし た。

●第25回ふつうの茶会(おちゃのかい)

日時:平成28年9月24日(土)

10:00~15:00

場所:豊橋市 豊橋公園内 三の丸会館

裏千家茶道部「おちゃのかい」が毎年開催している"ふつうの茶会"は25回目の開催を迎えまし た。開学40周年とも重なる今回は、節目となる記念として新たな掛け軸と棚(竹寿棚)を用意しま した。掛け軸には「掬水月在手(水を掬すれば月手に在り)」とあり、秋のお茶席を楽しんでいた だきたいという思いが込められています。当日は大勢のお客様にお越しいただきました。







●吹奏楽団第32回定期演奏会(吹奏楽団)

日時:平成28年10月2日(日)10:00~17:00 場所:ライフポートとよはし コンサートホール





第32回定期演奏会は、吹奏楽団が主管となって開かれるコンサートで、演奏はもちろん、企画や 運営は学生自らが行います。団員が日々の活動を通して努力してきた成果を披露する場であると同 時に、30年以上に渡り、この活動を応援して下さった地域のみなさんへの感謝の気持ちを伝える場 となっています。

「We are Entertainer」をテーマに揚げ、客演指揮に豊橋クラリネット協会理事の中村健次先生 をお迎えして、演奏を行いました。

●駅伝大会(学友会)

日時:平成28年10月29日(土)

場所:本学ループ道路及び外周道路

第39回開学記念駅伝大会を、本学ループ道路及び外周道路(計6区間、計16.2km)をコースと し、本学学生及び教職員105名、計15チームが出場して開催しました。本大会の目的は、運動を通 して健康意識を高めることと、様々な人との交流を計ることです。本大会は、学友会が主催、企画 を行い、スタッフ26名で運営を行いました。13時に開会宣言を行い、全チームを代表してチーム 「トライアスロン部」代表土居君が選手宣誓を行いました。そして、内山学生生活委員長の合図に より全チームが本学事務局前を一斉にスタートしました。沿道では応援に駆けつけた学生たちが、 ランナー達に声援を送っていました。どのチームも強風の中、一生懸命に走り完走する中、チーム 「トライアスロン部」が1時間06分07秒で初優勝を果たしました。最終ランナーがゴールすると、 参加者の中から拍手が巻き起こり、お互いの健闘を讃えあいました。閉会式では、内山学生生活委 員長から学長杯の授与が行なわれました。その後、閉会宣言を行い、第39回開学記念駅伝大会は大 盛況の中、終了しました。

大会当日は晴天に恵まれ、大きな怪我や事故もなく、無事に大会を運営することができました。 大会運営にご協力いただいた学生課の方々をはじめ、当日の運営に尽力いただいた技科大祭実行委 員の方々に感謝を申し上げます。





●東三河生態系ネットワークフォーラム2016

日時:平成28年11月19日(土) 10:40~16:00

場所:本学講義棟A-101

東三河生態系ネットワーク協議会は、地域の生物多様性と生態系を保全していくために、NPO団体、行政 自治体、大学、市民などの協力の下様々な活動を行っています。年次フォーラム開催もそのうちの一つです。 今回は、豊橋技術科学大学開学40周年記念事業の一環として本学にて共催・開催し、基調講演のほか、大 学、研究機関、地元5校の高校生などによる科学研究の口頭・ポスター発表、様々な団体によるパネル展示な どを行いました。

●第20回シンポジウム「次世代自動車技術の現状と将来~自動運転と運転支援~」

日時:平成28年11月25日(金)13:30~17:30

場所:本学講義棟A-101

近年、自動車関連技術は人工知能(AI)技術の導入などによって大きく変わりつつあります。本シンポジウムでは、自動運転技術・運転支援技術を中心とした次世代自動車技術の現状と将来について、名古屋大学未来社会創造機構 モビリティ部門長 特任教授の二宮芳樹先生をお招きし、ご講演いただきました。また、本学の次世代自動車技術の研究について、この分野で研究を進めている学内研究者が講演しました。

このシンポジウムに167名(学外76名、学内91名)の参加がありました。

●アセアン諸国大学学長会議

日時:平成28年12月18日(日)~12月19日(月)

場所:マレーシア教育拠点(マレーシア・ペナン)

本学主催の「アセアン諸国大学学長会議(ASEAN University Presidents Forum)」を、マレーシア教育拠点(マレーシア・ペナン)にて開催しました。

本学の開学40周年を機に、大学のグローバル化、大学間の国際協力等の課題等を共有することを通じて、アセアン諸国大学との絆を深め、更なる連携強化と相互の発展を目的として開催したものです。この会議には、本学と大学間交流協定を締結しているアセアン諸国大学の学長等が参画し、開学以来、初めての開催となりました。

会議には、アセアン8ヵ国から22大学及び日本から本学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構が参加し、堀尾文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室室長補佐によるご挨拶及び高等教育政策に関するご講演、大西学長及びDatuk Prof. Dr. Asma Ismailマレーシア科学大学長による基調講演、各参加大学による国際戦略等に関する発表、全体討議が行われ、活発な意見交換が行われました。会議の最後には、Chair's Statementが取りまとめられ、本会議での成果の共有を行いました。

また、会議前日の12月18日には、レセプションを開催し、会議参加者に加え、在ペナン日本国総領事館及び在ペナンの日系企業や多国籍企業からも多数の方々にご出席いただき、日頃の本学のペナンでの教育・研究活動への支援に対する謝意をお伝えするとともに、意見交換等を行いました。

今回の会議を機に、アセアン諸国大学及び現地企業との連携・協力を強固にし、本学の更なる海外展開とグローバル化を推進していきます。



●文部科学省研究大学強化促進事業豊橋技術科学大学シンポジウム

「東三河から世界へ」~産学官連携による新しい価値の創造~

日時:平成29年2月14日(火)12:30~17:30

場所:ホテルアソシア豊橋 ザ ボールルーム

第4回豊橋技術科学大学シンポジウム「東三河から世界へ~産学官連携による新しい価値の創造~」を テーマに開催しました。

このシンポジウムは文部科学省「研究大学強化促進事業」の一環とし毎年開催しているものであり、今回 は企業・研究機関関係者を中心に約240名強の参加をいただきました。

シンポジウムと並行して、本学の主な研究成果のポスター掲示と、それに関するデモ展示を行いました。 大西学長による主催者挨拶の後、文部科学省科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長の坂本修 一氏による来賓挨拶が行われました。その後、基調講演「東三河から世界へ ~最新コーティング技術で世 界制覇~」がオーエスジー株式会社 代表取締役社長の石川則男氏によって行われ、好ましい産学連携の モデルが紹介されました。続いて、本学の取組紹介として「技術科学イノベーション研究機構の設立とその役 割」と題して、本学 副学長/技術科学イノベーション研究機構 機構長の寺嶋一彦教授が、機構で実施 されているいくつかの具体的な研究プロジェクトを示しながら、オープンアプリケーションとマッチングファンド 制について紹介しました。

その後研究紹介として、三浦純教授、岡田美智男教授、齊藤大樹教授、福本昌宏教授による、最新モー ションテクノロジー、関係論的ロボット、東三河における防災減災システム、膜構造創成技術開発の紹介があ りました。シンポジウムの最後に行われたパネルディスカッションでは、「東三河から世界へ~豊橋技術科学 大学と産学官連携による新しい価値の創造~|をテーマに掲げ、原邦彦 副学長がモデレーターとなり、価 値創造につながる産学官(金)連携の在り方と方策について、坂本修一氏、石川則男氏、豊橋市長 佐原光 一氏、豊橋商工会議所会頭神野吾郎氏、大西学長、による議論が交わされました。

シンポジウム閉会の後には情報交換会が開催され、和 やかな雰囲気の中、出席者の皆様にご歓談頂くことがで きました。







●豊橋技術科学大学技術支援室報告会

「大学の教育と研究を高度な技術でサポート」

日時: 平成29年3月27日(月)13:30~16:10

場所:本学 A2-101講義室

本学技術支援室の活動を学内外に紹介することを目的に、各チームの活動紹介と招待講演会(武蔵精密工業(株)研究開発部長 西村直哉氏)のプログラムで実施しました。当日は学外からの参加者30名を含む約140名の参加があり、本学の技術支援室の活動を知っていただく良い機会となりました。

●レゴ製大学看板の作成

本学をアピールする手段の一つとして、総合文化部 レゴ部門(課外活動)により、レゴ製大学看板を作成し ました。上の行に大学名とコミュニケーションマークを、 下の行には大学名を英語表記で記載しています。



新入生歓迎行事や総文days(総合文化部部員の日頃の成果を発表する場)において展示を行いました。

●正門サイン改修(H28.12)英文の大学名を並記







ご寄附いただいた方への銘板の掲示について

一定額以上(個人4万円以上,法人20万円以上)ご寄附いただいた方には,感謝の意を表し,御芳名を刻印した銘板(ネームプレート)を学生交流会館に掲示させていただきました。 (掲示を希望されない方を除きます。)



■寄附者のみなさまへ

● 開学40周年記念事業推進室

開学40周年記念事業推進室では40周年にあたる平成28年10月に向けて、およそ、その2年前から準備 を進めてまいりました。実施体制としては記念事業推進室が中心となり、記念式部会、年誌編集部会、事業 部会、募金部会の4部会を設けてのスタートなりました。当初の一番の心配ごとは、果たしてどれだけのご寄 附がいただけるのかということでしたが、お陰様をもちまして目標額を上回るご寄付を賜り、心配は杞憂に終 わりました。ここに、企業の皆様や個人の方々からのご厚意に衷心より感謝申し上げます。

(室長 学長補佐〈開学40周年記念事業担当〉 田中 三郎)

● 開学40周年記念事業委員会専門部会

記念式部会

開学40周年記念事業募金につきまして、多大なるご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。平成28年 10月に開催いたしました開学40周年記念式典、記念講演会、記念祝賀会におきましては、多くの皆様にご出 席賜り、盛況のうちに閉会することができました。また、この記念式典等を通じて、多くの皆様より祝福、激励の お言葉を頂戴いたしましたこと、改めて感謝申し上げます。

(副主査 機械工学系 准教授 竹市 嘉紀)

年史編集部会

ご寄附いただき、誠にありがとうございました。無事に40年史を発行することができました。改めてこの10 年を振り返ると、大きな変革があったことがお分かりいただけるのではと思っています。誤植など至らぬ点は 多々あろうかと思いますが、修正したものを記録として保存していきますので、ご連絡いただければ幸いです。

(主査 副学長(IR担当/社会連携担当) 井上 隆信)

事業部会

本学開学40周年記念事業への寄附金の募集につきましては、多大なるご理解、ご協力を賜り厚く御礼申 し上げます。事業部会におきましては、記念事業の計画・立案にあたり様々な角度から検討しましたが、中で も強く意識したのは、より良い大学環境を学生に提供することでした。結果的に、図書館の改修が実現しまし た。校歌がないのは寂しい、ということから、40周年記念歌を公募により制定しましたが、10周年記念歌2曲 の掘り起こしという副産物も得られました。これらの事業を実現できましたことに、改めて御礼申し上げます。

(主查 情報・知能工学系 教授 藤戸 敏弘)

募金部会

開学40周年に先立つ平成27年10月から記念事業募金の受付を行ってまいりましたが、この度平成29年 9月をもって2年間にわたった募金期間は終了いたしました。その間、記念事業の趣旨にご賛同いただいた 大変多くの個人又は法人等の皆様からご寄附を頂戴いたしました。また、共同研究の形で多大なご支援くだ さった企業様もあり、おかげをもちまして目標額を大きく超え、当初予定していました記念事業を無事実施す ることができました。これもひとえに皆様方のご支援ご厚情の賜物と心より感謝申し上げます。

> (主査 副学長〈研究力強化担当〉 原 邦彦)

3 「写真」で見る開学40周年記念事業

section

附属図書館リニューアル

多文化共生・グローバルキャンパスの核として、1階を「マルチプ ラザ」とし、日本人学生・外国人留学生・教職員・企業・地域と の交流等を行うエリアとして整備。さらに,女性専用の休憩室・ 授乳コーナー等の女性支援エリアを新設。



After



建物概要

延床面積:3,062.38㎡ 改修面積:2,960㎡

構造:鉄筋コンクリート造・3階

工事期間:平成28年8月~平成29年2月





デッキ(南側) 飲食可能エリア



テラス(北側)



女性専用更衣室• パウダールーム



ワークステーション エリア



図書館エリア



コラボレーション エリア





section 2

学生課外活動施設の整備充実

開学40周年を迎え、学生の課外活動施設の老朽化が進んでおり、学生が美しい環境の下でト ラック競技やフィールド競技で活動できるよう,陸上競技場(400mトラック,サッカー場又はラグ ビー場)及びテニスコート3面の整備充実。





After



Athletic stadium |

工事期間

平成29年7月~平成29年10月

工事概要

陸上競技場

トラック部=400mトラック ※走路改修(クレイ系舗装) 4,696㎡

フィールド部=サッカー場又はラグビー場 ※インフィールド改修 (クレイ系舗装) 7,492㎡

テニスコート

人工芝コート=Aコート ※砂入り人工芝改修 1面 487㎡

全天候コート=B,Cコート ※ハードコート改修 2面 1,292㎡







TUTグローバルハウス新設

日本人学生と外国人留学生が一緒に生活し,国内にいながら国際生活を体感できる多文化共生・ グローバルキャンパスの実現

建物概要

学生宿舎

鉄骨造3階建て

5人を1ユニットとしてシェアハウス型 1棟(562㎡)30人収容を3棟 個室面積 約8㎡ 1棟(547㎡)30人収容を3棟 個室面積 約8㎡

集会所

1棟(145㎡)

工事期間

第一段階 学生宿舎2棟及び集会所 平成29年3月完成(平成29年4月~供用開始)

第二段階 学生宿舎2棟 平成30年3月完成(平成30年4月~供用開始)

第三段階 学生宿舎2棟 平成31年3月完成(平成31年4月~供用開始)















section 4

開学40周年記念事業

開学40周年記念式典, 記念講演会及び記念祝賀会

平成28年 10月3日(月)14時~ 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT主ホール







開学40周年記念 TUTグローバルハウス及び 附属図書館竣工記念式典,披露会•記念祝賀会

平成29年 3月28日(火)13時~ 本学TUTグローバルハウス 及び附属図書館







市民公開講演会

「科学技術の光と影 一市民との対話から考える科学技術と自動運転システムの未来一」 平成28年8月2日(火)13時~ ホテルアソシア豊橋 共催:日本学術会議



東京大学宇宙線研究所長 教授 梶田隆章 氏



トヨタ自動車(株)代表取締役 副社長 加藤光久 氏



カリフォルニア工科大学 教授 下條信輔 氏



各種シンポジウム



理系女性研究者の活躍促進シンポ 平成28年8月23日(火)



未来ビークルシティリサーチセンターシンポ 平成28年11月25日(金)



研究大学強化促進シンポ 平成29年2月14日(火)

開学40周年記念植樹式

「豊橋技術科学大学学長を囲む会」の皆様より、シデコブシ7本を寄贈いただきました。 (平成28年11月8日(火))













陸上競技場改修

TUTグローバルハウス新設

Renewal Map





開学40周年を機に,大 学をアピールするツール のひとつとして,また,大 学職員としての帰属意識の醸成,大学広報意識の向上を図ることを目的として作成しました。





豊 標 技術 科 学 大 学



正門サイン改修





4 発起人名簿

学 長 大西 隆 理 事 大貝 彰 井上 章文 神野 吾郎 光輝 鈴木 学 長 副 寺嶋 一彦 井上 隆信 原 邦彦 特別顧 間 神野 信郎 石田 誠 学長特別補佐 伊津野真一 三浦 昭浩 純 若原 経営協議会委員 鎌土 重晴 小畑 秀文 合田 隆史 佐原 光一 谷口 功 古野志健男 松井 孝悦 吉川 一弘 名誉 教授 青木 克之 青木 伸一 阿部 英次 定宏 伊藤 健兒 伊藤 浩一 石田 誠 磯田 伊藤 光彦 稲垣 上村 正雄 臼井 支朗 梅本 実 大久間慶四郎 大澤 映二 康善 太田 昭男 大呂 義雄 沖津 昭慶 小沼 義昭 恩田 和夫 徹三 角田 範義 角 加藤 史郎 金子 豐久 亀頭 直樹 川上 正博 河邑 眞 菊池 洋 木曽 祥秋 北尾 高嶺 北田 敏廣 北村 健三 小﨑 正光 小杉 隆芳 後藤 圭司 小林 俊郎 小松 弘昌 逆井 基次 榊原 榊 佳之 清水 良明 神野 清勝 鈴木 慈郎 建樹 関野 秀男 髙橋 雄二 茂男 鈴木 康 高木 章二 正 高山 竹市 力 竹園 聖一 中村 田所 嘉昭 寺澤 猛 長尾 雅行 中川 中村 俊六 雅勇 西永 頌 新田 恒雄 野口精一郎 野田 進 野田 保 野村 武 英 貢 浜島 昭二 日比 昭 平石 明 廣畠 康裕 福岡 秀和 藤井 壽崇 星 鐵太郎 堀内 宰 堀川 順生 波雄 本間 寛臣 本間 宏 秀治 松爲 宏幸 松本 博 本多 蒔田 水野 彰 三田地紘史 安田 好文 山口 誠 山本 淳 山本 眞司 横山 光雄 吉田 明 米津 宏雄 渡邉 昭彦 教 授 青野 雅樹 浅野純一郎 忠晴 池松 峰男 伊﨑 昌伸 井佐原 均 足立 飯田 明由 伊津野真一 精二 石川 靖彦 石田 好輝 市川 周一 岩佐 井上 隆信 上原 秀幸 内田 裕久 内山 直樹 梅村 恭司 浴 俊彦 大平 孝 岡田美智男 加藤 茂 加藤三保子 河村 齊戸 美弘 庄造 北﨑 充晃 栗山 繁 小島 俊男 齊藤 大樹 和明 忠 坂本 和子 櫻井 庸司 佐藤 海二 澤田 柴田 隆行 章 鈴木 新一 大門 裕之 三郎 髙島 和則 髙嶋 孝明 高橋 由雅 滝川 浩史 田中 辻 秀人 都築 和代 寺嶋 一彦 戸髙 義一 中内 茂樹 中澤 祥二 中野 裕美 中森 康之 光男 藤戸 孝男 増山 繁 史朗 福田 福本 昌宏 敏弘 藤原 穗積 直裕 松島 厚範 明彦 三崎 幸典 松田 松本 三浦 均也 三浦 純 三浦 博己 水嶋 生智 宮田 譲 武藤 浩行 森 謙一郎 柳田 秀記 若原 昭浩 同窓会役員 古野志健男 髙嶋 戸髙 義一 亮史 関下 信正 安部 洋平 山田 基宏 孝明 稲田 田﨑 良佑 秋月 河野 剛士 宏幸 一平 後藤 川島 朋裕 拓磨 高木 秋田 太一 山本 一公 加藤 博明 中村 純哉 中野 裕美 佐藤 裕久 栗田 弘史 岡辺 拓巳 松本 幸大 松尾幸二郎 蒲原 弘継 Tan Wai Kian Soda Chanthamath 事 務 局 鈴木 章文 児島 基久 西村 山内 萩平 昌樹 田中 泰雄 和哉 弘 森田 一司 小林 英史 戸部 精侯 渋谷 省一 楠元 好秋 清水由紀子 植松 秀也 黒柳 和久 伊東 裕治 小柳 幸次 松本 哲夫 上西 浩司 柴田 武彦

※役職名等は事業実施時点(H27.10~H29.9)の役職で表記しています。

